

脳神経外科研修カリキュラム

研修目標

本研修プログラムは、卒 後臨床研修プログラム選択研修の脳神経外科カリキュラムである。本プログラムでは、1 週間のオリエンテーション後、実地にて脳神経外科領域疾患の基本的な知識と技術を研修する。研修終了時に、意識障害患者、脳血管障害および頭部外傷患者の診断、初期治療が可能となることを目標とする。

1 一般目標 (GIO: General Instructional Objectives)

- ・ 脳神経外科領域疾患（意識障害患者、脳血管障害疾患および頭部外傷疾患）の病態、診断、治療法の基本的知識を習得する。また、診適切な初期治療が可能となること。
- ・ 緊急を要する重症例に対し、初期緊急治療が可能となること。

2 行動目標 (SBO: Specific Behavior Objectives)

A 基本的な診療法について

(1) 問診、病歴の記載

患者との間によりコミュニケーションを保って、問診を行い、問題解決志向型病歴 (POMR: Problem Oriented Medical Record) の病歴記載を行う。

(2) 診察法

バイタルサイン、意識状態、神経学的理学所見、頭頸部所見の取り方を習得する。

B 臨床検査について

髄液検査、神経放射線検査（単純 X 線、CT、MRI 検査、脳血管撮影）、核医学、生理学的検査の実施、判定および評価を行い、患者・家族に説明する。

C 治療について

脳神経外科領域関連疾患の基本的な治療法・管理方法を理解し、実施することができる。

(1) 基本的患者管理について

安静度、患者体位、バイタルサインの測定、管理目標などについての知識を習得し、医療スタッフへの適切な指示を行う。

(2) 薬物療法について

薬剤の作用、投与量、投与方法、副作用を習得する。

(3) 基本的手技について

気道確保、人工換気、心マッサージ、創部処置・消毒・ガーゼ交換、注射（皮内注射、筋肉注射、末梢静脈、中心静脈の確保、動脈血採取）などを実施する。

3 経験すべき疾患、症状

- ・ 脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）、頭頸部外傷、炎症疾患（髄膜炎、脳炎）、脳腫瘍、変性疾患患者の診療を経験する。
- ・ 頭痛、めまい、運動麻痺、感覚障害、痙攣発作などを訴える患者の診療、適切な検査を経験する。
- ・ 重度の意識障害患者の初期治療、診断を経験する。
- ・ 認知症

研修方略

I. 研修スケジュール

1. 研修1週間はオリエンテーションを行う。
2. 研修2週より下記のスケジュール表に準じて研修を行う

	月	火	水	木	金
朝	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス		モーニングカンファレンス	
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟回診	脳血管撮影	外来 病棟回診	手術、周術期 管理	まとめ
		リハビリカンファレンス	抄読会		

(*) 緊急患者、緊急検査、緊急手術には随時立ち会う。

(*) 土曜日、日曜日の輪番日には、当直を行う。

研修評価

研修評価は、研修修了時（～その1ヵ月以内）担当指導医が、EPOC-オンライン評価システムにて評価する。最終評価は、まつもと医療センター病院群臨床研修管理委員会でその委員会規定に基づいて行う。

< 指導医 >

渡辺宣明（昭和56年卒） 脳神経外科学会専門医